

金子武藏 （おごさき たけぞう） 哲學者、文學博士。明治二十八年一月二十一日高知縣生れ、昭和五十九年十一月二十一日歿（九〇五一歳）。昭和二年東京帝國大學文學部哲学科卒。二十一年同大教授、のち北海道大學、成蹊大學、國際基督教大學各教授歴任。ヘーゲルを中心としたドイツ觀念論を研究。妻は西田幾多郎の二女。

譯書、ルビンシュタイン著『絶対的理性主義』（昭和四年十一月）  
 十日岩波書店「哲學論叢」）、パウムガルテン著『戦争の道徳的反省』  
 （昭和二十一年二月十五日筑摩書房）等。著書、コヘーゲルの國家  
 観』（昭和十九年八月八日岩波書店）、『實踐哲學への道』（昭和二十一年十月二十日岩波書店）、『西洋精神史の問題』（一）『（昭和二十二年六月二十日小山書店）、コ人間・藝術・政治』（公著・小尾俊人編、昭和二十二年九月二十日みすず書房）『ヒューマンイズム論』（『實存理性の哲學』（ヤヌパーヌ哲學公刊）『（昭和二十八年八月二十日弘文堂）、『セーレンキルケゴールとその人と思想』（公著・務臺理作編、昭和二十一年十二月十五日理想社）、『人文科学の反省』（公著・淡野安太郎編、昭和二十二年二月二十五日毎日新聞社）『毎日ライブラリー』（『倫理學概論』（昭和二十一年九月十六日岩波書店）、『良心と幸福』（昭和四十年九月二十日清水弘文堂書房）入門シリーズ』）等。

